

MOTの比較

	芝浦工業大学	東京工業大学	東京農工大学	東京理科大学	日本工業大学	早稲田大学	山口大学	九州大学	長岡技術科学大学	新潟大学
1. 名称	工学マネジメント研究科	イノベーションマネジメント研究科	技術経営研究科 技術リスクマネジメント専攻	総合科学技術経営研究科	技術経営研究科	アジア太平洋研究科 国際経営学専攻	技術経営研究科	経済学府 産業マネジメント専攻	技術経営研究科 「システム安全専攻」	技術経営研究科
2. 対象	・30歳前後の社会人 ・博士課程: 大学院修士課程又は専門職学位課程を修了している者	・実務経験のある社会人 ・大学および大学院修了 見込みの学生	・社会人および学部卒 社会人で実務経験3年以上は 上長推薦により特別選抜枠 ・企業の経営企画、技術戦略、 管理、知的財産管理など ・産業化学政策、経営、技術コン サルタントを目指す方、起業家	・学部または修士課程を 修了した技術者で、7年 程度のキャリアのある者 ・弁理士、コンサルタント、起業 家、公的機関の技術部門にい るものも受け入れる。	・大学卒業後、実務経験5年 以上を有する者 ・入学者のイメージは、中 堅・中小企業経営者及び その後継者、 ・新事業・プロジェクトの立 ち上げ・マーケティング 担当者、 ・社内又は個人の起業家/ 起業予定者	・CTO候補者、先端技術・政 策立案者、モノづくり企業 イノベーション推進者 ・R&Dマネジャー候補者	・経営者、CTO予備軍、イノ ベーションを目指す地域人 材	・社会経験2年以上	企業で実務経験が2年以 上ある者	社会人 (技術管理者、製造業経 営管理者、製造業後継 者)
3. 基本情報	①2年間 ②定員 28名 ③平日夜間・土曜日 ④技術経営修士 (専門職) ⑤ 修了要件 必須科目・選択科目 「プロジェクト演習」、 「特別課題研究」より、 40単位以上修得 <工学研究科> 地域環境専攻内に 「先端マネジメント工学」 ① 3年間 ② 定員 6名 ③ ④ 博士(工学)or 博士(学術) ⑤ 3年以上在学し、 博士論文審査および最 終試験合格	<技術経営専攻 専門職学位課程> ① 2年間 (1年間での短縮制度あり) ② 定員 30名 ③ ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 2年以上在学し、 40単位以上修得 「特定課題のプロジェクト レポート」の審査合格 <イノベーション専攻 博士後期課程> ① 3年間(短縮あり) ② 定員 7名 ③ ④ 博士(技術経営) or 博士(工学) ⑤ 学位論文の作成	① 2年間 ② 定員 40名 ③ 平日夜間・土曜日 ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 2年以上在学し 46単位以上修得 プロジェクト研究の内、 「ビジネスプラン」と 「ケーススタディ」が必修 学内インキュベーション 施設でのインターンシッ プが可能。	<2年コース> ① 2年間 ② 定員 40名 ③ 平日夜間・土曜日 ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 46単位以上修得 ワーキングペーパー 提出 <1年コース> ① 1年間 ② 定員 10名 ③ 平日昼間・土曜日 ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 46単位以上修得 ワーキングペーパー 提出 短期集中型で修得 企業派遣者や転職を目指す 人	① 1年間 ② 定員 30名 (3コース 合計) ③平日夜間・土曜日 ④技術経営修士(専門職) ⑤34単位以上修得 1年間を4学期(4ターム: 春学期15週、夏学期6週、 秋学期15週、冬学期6週)	<2年制> ① 2年間 ② 定員 約45名 ③ 金・土および平日夜間 ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 50単位以上修得 (基礎科目、発展科目、プ ロジェクト研究、修士論文を あわせて) ・修士論文 ケース、ビジネスプラン、 事業提案を含む問題解決型 論文で、論理性・実現性・独 創性を重視する。 最低文字数:25000字 <1年制> ① 1年間 ② 定員 10名 ③ 金・土 および平日夜間 ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 50単位以上	① 2年間 ② 定員 15名 ③ 平日夜間・土曜日 ④ 技術経営修士(専門職) ⑤ 40単位以上修得 (必修 11科目を含む) 導入科目・基盤科目は、火 曜日・水曜日の3・4時限に も開講	① 2年間 ② 45名 ③ ④ MBA ⑤ 36単位(必修6科目、 プロジェクト演習、英 語講義を含む)	① 2年間 ② 15名 ③ 土曜日、日曜日 ④ システム安全修士 (専門職) ⑤ 46単位以上修得 必修科目12単位 システム安全基礎演習 システム安全実務演習	① 2年間 ② 20名 ③平日夜間・土曜日 ④技術経営修士 (専門職) ⑥ 40単位以上 必修 16単位 必修 モノづくり戦略論Ⅰ・Ⅱ 経営戦略Ⅰ・Ⅱ プロジェクト演習Ⅰ プロジェクト演習Ⅱ

<p>4. プログラムの特徴</p>	<p>①マネジメント科目と技術分野毎の最先端情報を与える科目を配置</p> <p>②プロジェクト演習事例研究に重点を置き、現場で直面する課題の解決作りに取り組む。</p> <p>③ 基本コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略の核となる技術戦略 ・イノベーションと新規産業創出の実際 ・市場を作る技術とマーケティングの融合を学び、「商品構想力」養う。 ・テクノロジーマネジメントの諸問題 ・テクノマネジャーの資質、技術人材の育成・評価能力 <p>④「工学マネジメント論」必修（企業実務家が講師）現場における技術経営課題をオムニバス方式学習</p> <p>工学系専門領域「環境・エネルギー」「先端技術企業化戦略」「システムマネジメント」の3専門領域</p> <p>「技術・産業論」「経営・管理」「財務・会計」の3専門領域</p>	<p>① 3つのコンセプト「理論と実践の一体化」「分野を統合した統合化」「固有文化に根ざした経営」</p> <p>② 特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野の最先端教育 ・常に最新のケーススタディ教材の提供 ・ディベートを中心とした講義やグループ活動によるリーダーシップの育成 ・ディレクター教授制の導入 ・技術経営を中核に、知的財産・ファイナンス・情報の3つの領域において多彩な教授陣を揃える。 ・博士後期課程を設置 ・将来のMOT教育・研究を担う人材育成 	<p>① 技術リスクを予見・最小化し、先端技術ビジネスを創出できるマネジャー・専門家の養成</p> <p>② 経営基礎科目・経営戦略科目に加えて、技術リスク全般を学ぶ技術管理科目、先端産業創出分野科目、知的財産・工業標準に関する科目</p> <p>③ 専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端機械 ・情報 ・バイオ ・環境・材料 <p>④ eラーニングシステム採用</p> <p>遠隔授業の実現と、自宅でのビデオ学習が可能。</p> <p>⑤ 小金井／田町の dual campus</p>	<p>技術者版MBA教育。教育目標は科学—技術—市場の統合を目指す事。</p> <p>① 授業は、事例研究、ディベート、クラス討論を進める。</p> <p>② 90分2コマ連続で、前半が理論・ケースの説明、後半がクラス討論</p> <p>③ 技術・産業論科目（先端技術の動向を洞察）、マネジメント科目（経営の専門知識）、イノベーション科目（技術と市場を結び付ける）、演習科目（フィールドスタディとプロジェクト研究）で構成。</p> <p>④ フィールドスタディは複数の教員グループが設定したテーマに学生が参加し、企業訪問・インタビュー等の実地調査を中心に学生が共同調査。</p> <p>⑤ プロジェクト研究は、フィールドスタディで調査したテーマを実践的に検証し、ケーススタディとワーキングペーパーを作る。</p> <p>⑥ キャリアアップのために、入学時に個人別教育プログラムを作る。人材斡旋会社が定期的なスキルアップ教育と、雇用市場情報を提供する。</p>	<p>①多忙な社会人、企業の変化の激しい経営環境に配慮し、短期(1年)で単位が修得できるように、集中的且つ効率的な教育。</p> <p>②経営戦略、新事業開発、展開戦略、起業戦略における課題発見・解決能力を有する人材を育成。</p> <p>③ 3コースを設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業経営者コース ・プロジェクトマネジメントコース ・技術起業戦略コース 	<p>① 日本のイノベーションエンジンを、「MOT」、「経営戦略」、「アントレプレヌールシップ」と定義し、産学連携を重視した教育体系を具現化。</p> <p>② 併設のMBAプログラム、国際関係学専攻、アジア太平洋受託研究プロジェクトなどの科目履修</p> <p>③ 英語・日本語いずれでも選択可能。</p> <p>④ 受講可能な科目数 90科目（国際関係学専攻の110科目を加えると200科目）</p> <p>⑤ トライアングルメソッド 教員、学生、学外アクターの3者が異分野・異文化・異業種の知恵の交流を図りながら、解決策を設計。</p> <p>⑥ 海外提携校留学・海外協カインターンシップ、</p> <p>⑦ アジア太平洋地域を基盤とした人材育成</p> <p>⑧ eラーニングの導入</p>	<p>① 目指す人材像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域中小企業の経営支援人材、経営者予備軍 ・地域中核企業のCTO支援人材、CTO予備軍 <p>② 演習系科目で、実践的課題に取り組むことにより、思考力とスキルを高める。</p> <p>③ カリキュラム 「導入科目」「基盤科目」「展開科目」「演習系科目」より構成される。</p> <p>④特定課題研究 「プロジェクト演習」「商品開発演習」「知的財産戦略演習」「ビジネスプラン演習」により、養われた総合力を基に、受講者の将来のキャリアパスを想定して用意されたテーマを選択し、自主的に課題研究をまとめる。成果は専任教員5名以上で審査し、評価する。</p>	<p>① 文理融合型の MBA 教育 経済学研究院の教員に、工学研究院、言語文化研究院、環境人間科学研究院の教員が専任として加わる。</p> <p>② 企業家精神に富むベンチャー型人材の育成と、産学連携を通して、知的財産管理を戦略的に行う人材を育成。</p> <p>③ 技術の戦略的駆使とともに、技術リスク評価を行う。</p> <p>④ Eラーニングシステムの導入</p>	<p>① 国内外の安全規格・法規に関する体系的な知識と実務能力および安全技術の統合的マネジメントのできる人材</p> <p>② 在職のまま学べるように、土日に集中講義を行う。</p> <p>③ eラーニング</p> <p>④ 所属企業の現場を題材に演習し、企業内の問題解決、安全管理に関する実践的なカリキュラム</p>	<p>(1)組織の知識・知恵を活かす組織編成・運営能力</p> <p>(2)リスクに強い組織への変革能力</p> <p>(3)効果的資源配分の策定・実践能力</p> <p>(4)アイデアを深掘し具現化できる能力</p> <p>(5)市場との対話を通じて競争力強化に貢献できる能力</p> <p>の5つの能力の養成を行うことで、「新潟地域企業の経営品質を持続的かつイノベティブに向上させる能力とスキルとを有する高度技術管理者と事業後継者・高度経営管理者」を養成。</p> <p>(1)学生が自ら思考・創造しプレゼンテーションでできる能力を飛躍的に高めるためプロジェクト演習での理論的・実践的レポート作成。</p> <p>(2)プロジェクト演習での全員参加の報告会を開催し、双方型のプレゼンテーション。</p> <p>(3)テクニカル・ヴィジットを適宜組み入れることで、常に実践現場と学生のもつ課題との摺り合わせ。</p>
<p>5. 選考方法</p>	<p>修士 書類審査および面接試験</p> <p>博士 面接及び口頭質問</p>	<p>修士 筆記試験(小論文・英語)、口頭質問</p> <p>博士 英語外部テスト結果</p> <p>研究実績・研究計画に関する発表と面接</p>	<p>一般選抜</p> <p>書類審査、学力確認試験</p> <p>小論文、口述試験</p> <p>社会人特別選抜</p> <p>書類審査、小論文、口述試験</p>	<p>書類審査と面接の総合判定</p>	<p>AO(アドミッション・オフィス)方式</p> <p>書類審査</p> <p>面談試験</p>	<p>書類審査(一次審査)</p> <p>エッセイ・面接(二次審査)</p>	<p>面接、志望理由書、成績証明書などにより、総合判定</p>	<p>1次試験 書類選考(願書のエッセイ等)</p> <p>2次試験 面接および英語インタビュー</p>	<p>・書類審査</p> <p>・システム安全に関する小論文</p> <p>・専門に関する口頭面接</p>	<p>一般入試</p> <p>筆記試験(英語)</p> <p>口述試験</p> <p>書類審査</p> <p>社会人特別</p> <p>口述試験</p> <p>書類審査</p>

7. メッセージ	<p>修士課程</p> <p>選別の時代に求められるものは、「戦術」でなく「戦略」である。「戦略」を構想できる未来への挑戦者を育成。新産業を創出する上での様々な背景の知識、経験、発想が集約されており、一種の生きた「異業種交流会」的要素を持っており、実践力の養成と実効性のある問題解決能力を身に付けさせる。</p> <p>博士課程</p> <p>MOT及びMOT教育の指導者となる人材を育成</p> <p>MOT及びMOT教育分野で国際競争力を備えた人材</p>	<p>修士課程</p> <p>日本の産業競争力は、技術や特許は世界レベルにあるが、そのマネジメント力が弱いために、著しくその地位を下げている。その改革要請に応えるものとして設立した。</p> <p>CTOやCEOになり得る人材の育成</p> <p>博士課程</p> <p>MOT分野の教育・研究に加え、世界のMOTをリードできる人材の育成</p>	<p>企業価値を真に高めないと企業の生き残りはありえない。知識産業化こそが知価の源泉である。その実現には弛まぬ改良と技術イノベーションが不可欠であるが、そこには技術リスクが潜んでいる。</p> <p>研究開発から事業化・使用・廃棄にいたるすべての過程の技術リスクを科学的に予見・最小化して、先端産業ビジネスを創出できる21世紀のスマートマネジャーを育成する。</p>	<p>新事業を創出のできる人材育成のための教授陣を揃えた。多種多様なプログラムを準備して、学生の要望に応えている。</p> <p>ナノテク、バイオ、情報、医薬の先端技術の習得と、経営論を体系的に身に付け、この2つのツールを基に、イノベーション力を身に付けさせ、世に送り出す事をマニフェストとする。</p>	<p>技術経営領域での実務能力を高め、中堅・中小企業における経営戦略、新事業開発・展開戦略、起業戦略などにおける課題発見・解決能力を持つ人材を育成する。</p> <p><中小企業技術経営コース></p> <p>中小企業に特有の事業活動に焦点を置き、経営者に不足しがちな幅広い実務知識と具体的スキルを学ぶ。</p> <p><プロジェクトマネジメントコース></p> <p>P2M(プロジェクトプログラムマネジメント)とその諸実務分野への適用を学ぶ。</p> <p><技術起業戦略コース></p> <p>実践的なベンチャー企業の経営戦略、ビジネスプランの構想と策定、具体的な起業プロセスの知識と技術を学ぶ。</p>	<p>①「不易流行」変えてはいけないものと、変えるべきものを見極めないと自己のポジショニングを失う。</p> <p>ぶれない軸足を持ち、独創的な発想をし、自主独立の意欲が強く、新しい問題を解決する能力に優れ、リーダーシップを発揮できる「高度専門職業人」の育成。</p> <p>②学生相互の「Give&Take」コミュニケーションを重視。多く与えた者は多く得る事ができる。相互研鑽によって、深い見識と活用可能な実践力を身につける事ができる。</p> <p>③技術を背景とした企業イノベーション、新製品・新事業開発戦略を立案・実行できる人材育成。</p>	<p>首都圏以外で初のMOT専門職大学院として、技術と経営の双方に精通し、戦略的思考のできる人材を育成し、地域企業の自立的発展と連鎖的イノベーションの創出を目指す。</p> <p>地域には、優れた技術シーズを有しながら戦略的事業展開やイノベーション創出に繋がらないに繋がらない企業が多く存在する。欠けているのは、経営者を支援する人材や、技術分野を戦略的に俯瞰できる人材である。</p>	<p>MBA 教育ではあるが、当初からMOT教育を取り込み、カリキュラムはMBAを基礎として、MOTに専門特化できるように編成している。</p> <p>学部の壁を越えてMOT関連科目を履修し、総合大学の知的ソースを思いっきり活用して欲しい。</p>	<p>①事故災害の本質的要因としては安全工学に対する教育／研究の欠如が重大であるという立場から、機械安全工学講座を設けてきた。今回それを拡大発展させて、「システム安全専攻」をつくった。</p> <p>②安全に対応できる専門職は、工学的知識を有する上で、安全に関する体系的な知識と実務能力および安全技術の統合的マネジメント能力が求められる。</p>	<p>①新潟地域の産業が抱えている「いかに科学技術の成果を自社の技術コンピタンスや市場と結びつける」という課題を技術と経営の融合に基づく統合的マネジメントの視点から解決し、「経営品質を持続的かつイノベティブに向上しうる能力とスキルとをもつ高度専門職業人」育成の必要性に応える。</p> <p>②新潟地域の中堅企業、中小企業の経営品質を高めることができる高度技術管理者、事業後継者、高度経営管理者を育成することで、地域発展に資する役割を担う。</p>
9. 教員	各分野で豊富な実務経験を持つ教師陣		専任16名中、8名が実務家教員、学内教員も産学連携・起業の実績を持つ。	専任15名のうち12名が実務家教員	教員の8割以上が、実務経験者					
10. 補足	米国のRPI、英国のImperial Collegeと提携関係にある。		古川研究科長、「GEM」の日本代表、世界標準のMOT基準	MIPコース 昼夜開講制の2年コース 定員80人						

記載内容は、各大学のパンフレット、ホームページ、「技術経営のすすめ MOT」2005年11月 経済産業省大学連携推進課、リクルート社「ケイコとマナブ」より引用している。